

CEFR-J レベル

A2.1

技能

Writing

Can Do descriptor

文と文を and, but, because などの簡単な接続詞でつなげるような書き方であれば、基礎的・具体的な語彙、簡単な句や文を使った簡単な英語で、日記や写真、事物の説明文などのまとまりのある文章を書くことができる。

テスト・タスク

あなたのクラスでは、来月から来るアメリカ人交換留学生 David のために、日本文化を紹介する冊子を作っています。事前に彼から次のような質問が来ています。日本の年賀状を 50 語程度の英語で説明する返信メールを書きなさい。

In America, we usually send Christmas cards to our friends. How about in Japan? Do you have a similar custom in Japan?

David

解答例 (評価 B)

(Dear David,)

In Japan, we usually send nengajo to our friends in new year's day. We write "Happy New Year" on it. Nengajo is very special in Japan because nengajo can keep our relation. But recently many young people don't send nengajo. They send email to say "Happy New Year."

採点基準 (B 評価 = 該当レベルに到達)

A: メール返信の体裁が整っている。「日本の年賀状の説明」をクリスマスカードと比較しながら行っている。if/while/though など、やや高度な接続詞を使って、まとまりを生み出している (まとまりが見られれば、必ずしも接続詞を使っている必要はない)。エラーは意味が阻害されない小さなものしかない。上の条件がクリアされていても、30 語程度以内なら評価を B に下げる。

B: 「日本の年賀状の説明」がある程度まとまった形 (箇条書きのような印象になっていない) で書かれている。and/but/because などの基本的な接続詞を使って、まとまりを生み出している (まとまりが見られれば、必ずしも接続詞を使っている必要はない)。エラーがあっても、意味が阻害されないもの。

C: 「日本の年賀状の説明」が書かれていない。「日本の年賀状の説明」を書こうとしている可能性はあるが、意味を阻害するエラーが多い。「日本の年賀状の説明」を書いてはいるが、箇条書きのように、1つ1つの説明に繋がりがなくばらばらな印象 (まとまりがない)。20 語程度以内しか書けていない。

開発段階: 第 1 期 (作成) 第 1 期 (実施) 第 1 期 (分析)

第 2 期 (修正なし) 第 2 期 (実施) 第 2 期 (分析)

メモ:

開発担当者: ライティンググループ